

心の壁を取り払う！

多文化共生社会の実現へ

世界の人々との交流拡大を目指し、地域外交の深化や通商の促進、国際競争力の高い観光地域づくりを進める静岡県。今回は、多文化共生社会の実現へ向けて「やさしい日本語」の普及に取り組み本県プロジェクトについて紹介する。

「言葉の壁のない静岡県へ」

2019年4月、「出入国管理及び難民認定法」の一部を改正する法律が施行された。これにより、外国人の新たな在留資格が創設され、今後、外国人県民のさらなる増加が見込まれる。また、東京2020オリンピック・パラリンピックでは、世界中から観光客が訪日する。こうした中、多文化共生を世界が憧れる理想郷づくりの柱とする本県は、外国人が抱える問題に迅速に対応するため、防災、福祉、教育、警察など部局の垣根を越えた、「危機管理」教

育「活躍」生活」の4つのプロジェクトチームを立ち上げた。各プロジェクトチームでは、今年度まず、災害時における外国人への情報発信の強化(危機管理チーム)、将来を見据えた子どもの教育支援(教育チーム)、外国人材の活用(活躍チーム)、外国人が安心して受診できる体制の整備(生活チーム)に優先的に取り組んでいる。全てのチームが掲げる共通のテーマは、「言葉の壁のない静岡県」の実現だ。

多言語による対応

県は、令和元年7月に「静岡

県多文化共生総合相談センター「かめりあ」を開設し、生活全般に関する相談を日本語を含む9言語(テレビ電話通訳・翻訳機等)によりその他の言語にも対応可)で受け付けている。同センターのリーフレットでは、「困っている外国人が相談する」ところと紹介している。

また、緊急情報の通知や防災学習などの機能を備える総合防災アプリ「静岡県防災」を多言語化し、今年4月から日本語を含む11言語で発信する。防災先進県として自助、共助、公助の重要性を多言語で周知していく。

「やさしい日本語」の普及

県は、外国人とのコミュニケーションをより円滑にするための手段の一つとして「やさしい日本語」の普及を目指している。やさしい日本語とは、外国人にもわかるように配慮した簡単な日本語のことだ。県レベルでやさしい日本語の普及に取り組んでいる事例は少ない。

県が外国人県民を対象に行った調査からは、やさしい日本語が有効な情報伝達手段だということが分かる。英語での会話や読解が「できる」と答えた人は全体の2割程度だったのに対し、「ひらがな付きであれば市役所や学校からのお知らせを読める」など、6割を超える人がやさしい日本語であれば理解できるとしている。

やさしい日本語には、「重要度が高い情報に絞る」、「あいまいな表現を避ける」、「文の構造を簡単にする」、「外来語、擬態語、擬音は使わない」などの

ルールがある。具体的には「今朝」を「今日の朝」、「余震」を「後で来る地震」、「記入する」を「書く」のように変換する。やさしい日本語は、外国人だけでなく、子ども、高齢者、障害を持った人とのコミュニケーションにも有効であり、さらに機械翻訳との親和性も高いとされている。

払拭すべきは心の壁

携し外国人県民の地域社会への参画を促していく。

県は、ルールを習得すれば誰でも迅速に情報発信ができるやさしい日本語の活用を進めるため、「静岡県庁」やさしい日本語」の手引き」を作成した。ホームページなどに掲載し、市町や事業所などへの普及に取り組んでいる。

さらに現在、「静岡県地域日本語教育推進方針(仮称)」の策定を進めている。外国人県民が身近な場所で日本語を学ぶことのできる体制を地域住民が日本語教育に関わりながら整えることで、多文化共生社会の実現を推し進めることを目的としている。今後、行政や事業所などが連

帯の多文化共生社会の基盤をより強化し、世界の人々との交流を拡大するに違いない。

「やさしい日本語」への変換例

おかけになってお待ちください	いすに すわって 椅子に 待っていて ください
折り返しお電話します	あとで 電話します
通れないことはない	通ることが できます
高台に避難してください	高い 場所へ 逃げて ください



わさび田(静岡市葵区有東木)で地域住民と外国人県民の交流。



外国人の子どもを対象に行われる日本語の授業。(浜松市西区)



「かめりあ」のリーフレットは8言語とやさしい日本語で作成されている。



「静岡県多文化共生総合相談センター かめりあ」で相談に応じるフィリピン語担当の相談員。